

|             |  |     |      |      |     |  |
|-------------|--|-----|------|------|-----|--|
| 科 目 名       | 福祉分野に関する理論と支援の展開   |     | 副題   |      |     |  |
| 担 当 者       | 宮森 孝史  |     |      |      |     |  |
| 開 講 期       | 後期   | 単位数 | 2 単位 | 配当年次 | 1 年 |  |
| 授業の概要       | テーマは福祉分野に関わる公認心理師の実践である。子どもをめぐる様々な問題、虐待、非行、障害児・者、DV被害、高齢者の問題など、福祉に関わる幅広い領域に関する臨床心理学的理論の獲得と、児童相談所、療育施設、心身障害者福祉センター、障害者作業所、女性相談センター、老人福祉施設等における支援活動の実践について理解を深める。  |     |      |      |     |  |
| 授業のねらい・到達目標 | 1. 日常生活を営む上で生じる困難、障害を緩和、解決するための社会制度、福祉サービスにおける心理職の専門性と役割を理解し、説明できる。<br>2. 各領域における支援のための理論の理解と具体的支援の方法を身につけ、説明できる。  |     |      |      |     |  |
| 授業の方法・授業計画  |  |     |      |      |     |  |
| 1           | 福祉分野における心理師の役割について   |     |      |      |     |  |
| 2           | 子ども・家庭福祉分野の理論と支援①：児童福祉法と児童相談所の仕事   |     |      |      |     |  |
| 3           | 子ども・家庭福祉分野の理論と支援②：社会的擁護と児童福祉施設   |     |      |      |     |  |
| 4           | 子ども・家庭福祉分野の理論と支援③：子育て支援と地域児童福祉   |     |      |      |     |  |
| 5           | 子ども・家庭福祉分野の理論と支援④：児童虐待への対応   |     |      |      |     |  |
| 6           | 障害児・者福祉分野の理解と支援①：障害児支援   |     |      |      |     |  |
| 7           | 障害児・者福祉分野の理解と支援②：障害者支援   |     |      |      |     |  |
| 8           | 障害児・者福祉分野の理解と支援③：障害者福祉支援の現状と心理職の役割   |     |      |      |     |  |
| 9           | 高齢者福祉分野の理解と支援①：少子超高齢社会の現状と問題   |     |      |      |     |  |
| 10          | 高齢者福祉分野の理解と支援②：高齢者介入技法に係わる心理職の役割   |     |      |      |     |  |
| 11          | 被害者支援分野の理論と支援①：DV被害者支援における心理職の役割   |     |      |      |     |  |
| 12          | 被害者支援分野の理論と支援②：犯罪被害者支援における心理職の役割   |     |      |      |     |  |
| 13          | 被害者支援分野の理論と支援③：災害被害者支援における心理職の役割   |     |      |      |     |  |
| 14          | 地域福祉分野の理論と展開：子どもの貧困、ひきこもりへの対応（コミュニティケア）における心理職の役割  |     |      |      |     |  |
| 15          | 福祉分野における多職種連携のあり方について  |     |      |      |     |  |
| 期末          |  |     |      |      |     |  |
| 授業に関する連絡    | 毎回、最後の10分で授業についての質問、コメントを求める。他の受講生との共有をはかり、理解を深めることとする。  |     |      |      |     |  |
| 評価方法及び評価基準  | 講義の区切れ目で、レポートを提出する（50％）。講義の最後には講義全体を振り返ってのレポートを提出する（50％）。それらを基に総合的に評価する。   |     |      |      |     |  |
| 事前・事後学習の内容  | 講義の展開に合わせ適宜、参考文献を紹介する。できるかぎり事前に読み授業に臨むこと。また、講義で確認できたことが次回の講義にどのように発展するのか十分復習すること。  |     |      |      |     |  |
| 履修上の注意      | 連続性があるので全講義に出席のこと。   |     |      |      |     |  |
| テキスト        | 各回のテーマに合わせ以下の参考文献を中心に適宜指示する。   |     |      |      |     |  |
| 参考文献        | 佐藤泰正・桐原宏行・中山哲志（著）「福祉心理学総説」、田研出版、2011年<br>井上智義（著）「福祉の心理学―人間としての幸せの実現」、サイセンス社、2004年<br>古賀精治・田中新正（著）「障害児・障害者心理学特論（放送大学大学院教材）」、放送大学教育振興会、2013年<br>小西聖子（著）「犯罪被害者のメンタルヘルス」、誠信書房、2008年<br>ベッセル・ヴァン・デア・コーク（著）「身体はトラウマを記録する―脳・心・体のつながりと回復のための手法」、紀伊國屋書店、2016年 |     |      |      |     |  |